



# 日 口 交 流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page: <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel: 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



## 2024年・新年のご挨拶

服部 文男

新年明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナ禍も収まりつつある中、ウクライナ侵攻、パレスチナ・ガザ地区侵攻など世界の各地で不安定な情勢が続き、日本においても経済など多方面で大きな影響が出ている1年でした。

日本とロシアは現在、政治・外交などで閉ざされておりますが、これまで長年継続されてきた両国の友好的な絆は忘れてはならないと思います。また必ず日本とロシアの関係は戻ると信じ、目先の事に囚われず、未来への広い心を持ってその時を待ちたいと思います。

日口交流協会は政治、外交などには関わらず日本とロシアの一般市民間で草の根交流を進めておりますが、昨年も残念ながらロシア国内での民間交流は活動できませんでした。



2023年12月理事会にて

しかし、国内での交流活動は皆様のご協力により、日口交流バスツアーによる草津温泉・リング狩り、着物体験、いけばな教室、マトリョーシカ絵付教室、日本・ロシア料理の講習会、手書き友禅教室、井の頭公園散策交流会、「麻布区民センターふれあいまつり」にロシアの子供達の歌と踊り「ロシアアンカ」の参加協力など数多くの交流イ

ベント活動ができましたことに大変嬉しく思っております。

日口国交回復50周年を記念して2006年から続けています「ロシア文化フェスティバル IN JAPAN」は、日本とロシアとの国交が好ましくない中、昨年も訪日公演などが開催され、日口の文化芸術交流は続いていることに嬉しく思っております。

これまで在日ロシア連邦大使館で日口交流協会、日本・ロシア協会、日本対外文化協会共同主催で開催しております「新春日口交流のつどい」はコロナ禍のため開催延期となりましたが、新たに外交関係の問題が発生したことから今年も延期となりました。

来年こそは在日ロシア連邦大使館の意向を伺いながらぜひ開催に向けて努力したいと思います。

大変お世話になりましたミハイル・ガルージン前大使の後任に、ニコライ・ノズドレフ大使の就任が予定されています。新しい年に新しい大使をお迎えして、新しい日口交流がスタートできることを協会一同嬉しく思っております。

日口交流協会の今年の目標は、厳しい日本とロシア情勢におきましても、長年育んできた両国の市民間の絆をさらに大切にし、できることから交流を深めていきたいと思っております。また、来年2025年は当協会創立60周年を迎えます。日口交流協会の目的をご理解いただき、ご支援・ご協力をお願い申し上げますと共に、平和な世界と皆様の幸多い年になりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。(会長)

### お知らせ

#### ●相撲観戦

日時: 2024年1月21日(日)

場所: 両国国技館

\*会員の方は4000円の席のチケットが数枚ありますのでご連絡ください。

#### ●茶道体験交流 (1)

日時: 2024年1月21日(日) 9:30~12:00

場所: 田町「リーブラ」

会費: 1500円

#### ●日本の家庭料理講習会 (1)

日時: 1月14日(日) 9:00~12:00

会場: 田町「リーブラ」料理室

会費: 2500円

講師: 小野田正子

#### ●日本の家庭料理講習会 (2)

日時: 2024年2月3日(土) 9:00~12:00

会費: 2500円

\*布巾、ハンドタオル、エプロンをご持参ください。

#### ●書道教室

日時: 2024年1月13日(土) 9:30~11:00

\*会員又は会員の紹介者のみとさせていただきます。

#### ●ロシア語の泉 (9)

日時: 2024年1月28日、2月11日、3月10日(日) 13:30~16:00

授業料: 3回で会員7000円、一般8500円

\*お問い合わせは事務局までお願いします。

Tel: 03-5563-0626 E-Mail: nichiro@nichiro.org

### お願い

NPO日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらでも結構です。なお、寄付とわかるようにお名前の前に番号「01」と入れてください。今月は、森田哲行氏にご協力いただきました。ありがとうございます。

振込先: 郵便口座 00160-9-66486、加入者: 日口交流協会

連絡先: 日口交流協会事務局 E-Mail: nichiro@nichiro.org



## 講演会「中口国境問題の解決の分析、他」



質問を受ける井出氏

11月26日(土) 15:00~17:00に新橋・生涯学習センター「ばるーん」303学習室にて井出敬二先生を講師に講演会が開催されました。

1689年康熙帝の時代にネルチンスク条約を結び、ピョートル1世との間に北の外興安嶺を国境とする条約を結びました。その後、1858年に璦琿条約により、清は黒竜江以北の土地などを失い、北京条約で沿海州もロシア領となった歴史を概観しながら現在に至るまでの経過を御講義賜りました。ブラゴベシチェンスクとアムール川をはさんだ対岸の黒竜江省黒河市璦琿区とは以前、ホバークラフトで渡河していたところ昨年大橋が開通したとのことでした。井出先生は外交はお互いの言い分をテーブルに並べてお互いの立場を突き合わせた結果、お互いが何を求めているのかを踏まえて双方の利益を斟酌してやらないといけない、その意味で中口の外交官は非常によくまとめてきたと評価していると仰られていました。モスクワは遠いですがシベリア・ハバロフスク・ウラジオストクと日本は観光交流ももっと活発になればとまた併せて日口平和条約等も進展があればと思いました。

終了後、近くのアイリッシュパブにて多士済々の方と懇親を深めて盛況に終わりよかったです。(大沢武久)

井出敬二先生(立教大学大学院法学研究科兼任講師)は元外交官としてロシア、中国で公使、クロアチア大使を歴任した豊富な経験と、長年の研究の著作「<中露国境>交渉史」(2017年刊)などでも知られています。今回は主にその国境問題に関する知見を分かりやすく一般の私たちにご紹介・解説いただいで、現下の国際情勢に関する見方もいくつか紹介していただく貴重な講演でした。2つの大国ロシアと中国は長年にわたる国境問題をいかに解決に導いたか日本でもあまり知られていませんが、両国との関係を模索する日本人の私たちにとってもこの歴史の事実は興味深い内容です。

近代以降、中国はロシアに奪われたとする土地を取り返すべく交渉を継続してきましたが、最終的には周恩来・鄧小平の「現状維持・棚上げ」路線に基づいて、またロシアは台頭する中国の国力を考慮しつつ領土境界を2008年に最終確定するに至りました。この際、双方が互いに接近することに戦略的なメリットを見出していたことも重要な点だとの指摘もありました。

日本に引き当てて私なりに感じるのは、ロシアとの国境問題解決、また中国との関係安定化のためには、日本自身がどのような戦略的な展望を両国とこれから新たに共有していけるか次第という事です。昨今のようなニュースばかりを目にすると、中国の上記のような「棚上げ」路線も今は隔世の感もありますが、どの国の市民も日常の生活に平和を求めている事変わらないという事を考えると、様々なコンテンツを使いながら私たちのような一般市民が直接交流の機会を作って対話していく事は大切だと思います。(江本大輝)



## 10年目のロシア人手描き友禅教室

笠原 以津子

ロシアの方の友禅教室を始めて10年になります。30年程前、カルチャーセンターの講師を頼まれた時、教える事が苦手な私は断るつもりでしたが「とても勉強になるので受けたら？」という師匠のアドバイスから、向上の為に引き受けました。始めてみると全くもってその通りでした。ロシアの方の教室では、更に勉強になる事があります。

まずは図案作りですが、季節感のある課題にし、出来るだけ伝統的な要素を取り入れ(お正月、お月見など)、友禅で「日本」をお伝えできるようにしています。しかし、日本について解っているようで解っていないことが多く、調べたり千葉さんに聞いたりしており、教える事で改めて知ることも多いです。日本の伝統、友禅の良さ、楽しさを伝えつつも、自分でも大いに学んだ10年でした。

ロシアの方の純粋に打ち込む姿はとても感動します。ひたすら自分の作品に向かい、黙々と描いていく、その真剣な姿勢はロシアの方ならではのようです。描き終わって「ここが納得できないので教えてください」と言われ、その箇所が強弱をつける等手を加えて差し上げると目を輝かせて喜ばれます。あの素敵な笑顔を見る度、嬉しくなります。



こうした友禅教室ですが、淋しいのは生徒さんが去る時です。始めがあれば終わりもある、仕方がないのですが特にロシアの方が帰国されるのはとても淋しいものです。この度パブレンコさんが帰国されました。長い期間でした

し、とても素敵な絵を描かれていました。真っ赤なコートをお召しになり、カッコいい女性とはああいう方という感じの方でした。でも、見た目のカッコよさ、クールさの反面、描くものはとても柔らかく、優しく、控え目でした。彼女にはそういう面があるのね、といつも思っていました。クールでカッコよくて、でも優しく温かいパブレンコさん、いつかモスクワでお会いしたいです。

「ちゃんと教えて差し上げられたかな。友禅の良さが伝わったかな」と、いつもどなたかが帰国される度に感じますがそうした反省を重ねながら、皆様の笑顔を見るのを楽しみに、今後も友禅での交流に励んでいきたいと思ひます。(理事)

## 明治中後期の函館でロシア語教育を担った笠原與七郎

倉田 有佳

明治中後期の函館では、官主導から、民(私立学校・正教会・個人)がロシア語教育を担うようになった。この時代のロシア語教育を牽引したのが笠原與七郎

(1869-1904年)である。

宮城県中新田に生まれ、14歳の時に同地の正教会で洗礼を受け

る。笠原たち13人を受洗したのは、函館でニコライから最初に洗礼を受け日本人初の司祭となったパーヴェル澤辺だった。

1884年、ニコライが開いた東京の正教神学校に入学するが、アメリカ留学を考えて卒業間近に退学。しかし、「中退」が仇となり留学の途は閉ざされる。

1890年頃函館にやって来て、当初の露語塾を露語研究会に発展させ【写真】、ロシア領事館の通訳兼書記、北海道庁立函館商業学校(函商)のロシア語嘱託を務めた。この頃の函館では、露領漁業勃興に伴い露語に通じた人材が求められ、ロシア語学習熱は幅広い層に及んだ。笠原から個人レッスンを受けた一人が高田増平(1872-1911年)だった。孫の泰雄氏がお持ちの「増平日記」によると、1900年の冬場に始めた「露学勉強」は1月後半と3月から4月1日にかけて計17回、増平は隔日で笠原の自宅(曙町2番地・現元町)を訪れた。夕刻からの大雪で外出を断念した1日を除き、暗い夜道雪道を通ったのである。それほど熱心だったのは、3年前、大家七平店(後の大阪商船会社)の小樽支社副支配人として、通信省役



「露文翻訳応需 露語研究会」の看板を背に中央に構えた人物が笠原か(函館市中央図書館所蔵)

人のコルサコフ港(サハリン)視察に同行した際、「言語の通ずるは以て大に親しむるの利器たるべく凡ての便利は言語の適否により親疎による事を感じたからだろう。そして5月1日、ロシア語という「利器」を得た増平は、函館港からウラジオストクに向かった。

1904年2月、日露戦争開戦。要塞地帯法によって函館から正教会関係者や露領漁業家等が強制退去させられた。笠原一家は義兄が暮らす黒松内に退去した。「露探(ロシアのスパイ)」を声高に糾弾する地元紙もあった。1904年3月10(西暦23)日のニコライの日記には、「とりわけ、政党間の論争ではこれ[露探:倉田]がさかんに使われている。自分の派でなければ、それは露探だということにされる。そして露探とされた者には弁解も容赦も認められない。」との指摘にあるような現象が函館でも見受けられた。笠原は1904年5月、持病の結核が悪化し、黒松内で亡くなった。

日露戦争後は一転し、日本とロシアは蜜月時代を迎える。1908年夏、函商では他校に先駆け、商工調査と語学実践を兼ねたウラジオストク訪問を実施する。函館港からはサケマスを求める漁夫たちの群れがカムチャツカに向かい、ウラジオストクとカムチャツカ間を行き交うロシア人漁夫を乗せた船が函館に寄港する。ロシア語が街に溢れる。笠原の早い死が惜しまれるが、笠原によって蒔かれた種は厳しい冬を耐え、「春」を迎えたのである。

(ロシア極東連邦総合大学函館校教授)



## 冬のお茶会体験会開催

千葉 麻里

2023年12月10日(日)9:30から田町「リーブラ」で、茶道交流が開催されました。ロシア側は大使館や通商代表部の方々が14名、日本人はロシア語のできる今津さんとさくらさん、渡邊理事がお運びを手伝ってくれました。水屋は裏千家流の高村靖子先生と宮崎恵津子さん、小林道子さんの3人にお願ひしました。皆さん、ふくよかな抹茶を点てる方ばかりです。

最初に、今回は干菓子の作り方を体験していただきました。ウズベキスタンでも使用した紅葉の木型を持参。和三盆糖に葛粉を少し混ぜ、食紅を入れた水で十分な練りを加えておきました。それを木型にしっかり押し込み、軽く叩いて外すとき綺麗な紅葉の干菓子が出来上がります。木型から現れた紅葉のお菓子を見ると歓声があがりました。

最初に男の子が体験し、その後女性が二人。「もっと強く押し込んで」「もう少し強く叩いたら?」などと声がかかり出来上がったものを口に入れて優しい甘さを味わっていただきました。5つ一度にできる木型ですが、皆さん遠慮されて一つずつ作っていらっしゃいました。

その後に席入り。座布団を多めに置き、後ろは座卓を用意して、少しでも足が楽になるようにしました。足を崩してお茶に、と声をかけてもなかなか崩されなかったため、一時間近くの正座はきつかったのでは、と思います。

床の間は定番の「一期一会」、香合は今年の名残に青磁の



ウサギを、花器には小林さんの活けてくれた照葉が映えて美しかったです。主菓子はうさぎ屋の「埋火」にしました。お茶銘を聞かれた方がいらしたので、小山園をお勧めしました。今回は薄茶用の青嵐です。薄茶器は糸巻棗で、人と人との繋がりを表し、色々なお道具の役割も説明させていただきました。

お正客に座った男の子は、きちんと正座して飲み方もよく聞いて、言われた通りに「お先に」と言ったりお茶碗を回したり、と最後まで勤めを立派に果たしてくれました。また、お次客のお父様は日本語が堪能で、細かい点まで逐次通訳してくれました。お客様にも助けられて和やかな雰囲気の中で終えることができました。ありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願ひいたします。(副会長)

## ヴォルガの古都ニージニーノヴゴロド

畔上 明

『…ニージニーが見えてきたときの、祖母の子供のような喜びよりも忘れられない。手をひっぱって、私を船べりへ押しつけるようにしながら、彼女はこう叫んだ。「見な、見な、いい景色じゃないか！あれが、あんた、ニージニーの町だよ！なんといったら、あれは神さまの町だからねえ！教会だって、ほら、よく見てみな、まるで空を飛んでいるようじゃないか！』(ゴリキー「幼年時代」木村彰一訳)

マクシム・ゴリキー(1868-1936)の自伝三部作である「幼年時代」、「人々の中」、「私の大学」を始めとした小説が熱烈に読まれた時代は、はるか昔のこととなってしまいました。3歳で父を亡くし、次いで11歳の時に母が他界、成績優秀ながら貧困のため1年で小学校を辞めなければならなかったという過酷な人生をスタートさせたゴリキー、その波瀾万丈の生涯と見事な記憶力から生み出された興味深い作品の数々、短篇「26人とひとり」「イゼルギリ婆さん」から膨大な長篇小説や「どん底」「エゴール・ブリュチョーフとその他の人々」といった戯曲……

作家の生まれ故郷ニージニー・ノヴゴロドはモスクワの東442km、ヴォルガ沿岸でニージニーと肩を並べる大都市カザンからは西に394kmと、交易の上での重要な町として発展、19世紀初頭から1930年まで開かれていた定期市では各地から多くの人々が集まる為、「風車小屋」と呼ばれる賭博場であるとか、「回転木馬」や「鍛冶場」といった娯楽場などのたむろする宿泊所などが知れ渡り、まさに魔窟と形容するにふさわしい、いかかわしくさえる賑わいに満ちていたのでした。

市の紋章である赤い鹿の姿が角を後ろにぐっと反らして何か楽しげに片足を上げていることから、19世紀末のまちは「陽気な山羊」とも呼ばれたそうです。政治運動で1870年代末に逮捕された作家のウラジーミル・コロレンコ(1853-1921)が1885年シベリアからニージニー・ノヴゴロドに居住を許され、それから十年ばかりの間、ヴォルガ上流の下層民の生活を描いたところでもあります。

ニージニー・ノヴゴロドは作家ゴリキーにとってのゆかりの地であることから1932年から1990年までの間ゴリキー市と改名されました。さらに、モスクワのメインストリートであるトヴェリスカヤ通りもソビエト時代はゴリキー通りと呼ばれるようになります。ゴリキー自身はその改名に反対したものの実体を離れて、社会主義リアリズムの大作家と祭り上げられ神格化されたイメージが付きまとってしまったことがあだとなり、かえって彼の作品は読者を遠のけてしまったように思えるのですが、今あらためて読んでみると面白いものです。

町がゴリキー市と呼ばれるようになった1932年に「ゴリキー自動車工場」が設立され、アメリカのフォード社の技術協力のもと「ヴォルガ」や「チャイカ」といった車種が生産されます。第二次世界大戦後、ソ連崩壊までは軍需工場があったことから外国人立入禁止都市でもありました。川の合流点の丘のアンサンブル、13世紀のブラゴヴェシエンスキー修道院、クレムリン城壁内のミハイロ・アルハンゲリスキー聖堂、壁の外のミーニンとポジャルスキー広場などパノラマの美しい都会でもあるのです。

## 遠いロシア

浜野 道博

昨秋モスクワに45日ほど居た。12年ロシアで勤めた職を辞してその4月に帰国したばかりだったが、ふらりと東京を飛び出しその日のうちにモスクワの空港に降り立った。私的な用向きにもかかわらず今時そんな軽業ができるのも40年連れ添う伴侶がモスクワ生まれだからだろうと東京ではロシア通の友人、知人にずいぶん羨望された。

来てみるとモスクワは記録的に暖かい9月で、思いがけない夏の延長にモスクワっ子たちはどこか浮き浮きとして、豊かに喧騒を楽しんでいた。離任した4月よりも世間の一部では金回りが良くなったのか、市内の高級レストランは贅沢なところから順に席が埋まっていた。

ちなみに高級レストランで食事する上流モスクワっ子たちは公共交通機関を利用しない。だから地下鉄や市バスに乗ると金回りとはあまり縁のない別のモスクワっ子たちと顔を合わせることになる。モスクワっ子のこのふたつのグループは水と油のように交わることがない。

モスクワ市営の地下鉄や市バスはここ数年で見違えるほど近代化した。地下鉄は2020年のコロナ蔓延以降も改札システムの改良、駅のリフォームや最新車両の導入を積極的に行い、いまではヨーロッパのどの都市よりも清潔で便利で安価なサービスを提供している。昔のモスクワの地下鉄は挟まれたら指の1-2本が折れるほど勢いよくドアが閉まったものだが、そういう旧型車両の姿が見えなくなった。ついであらからかつてモスクワの地下鉄見学といえば「マヤコフスキ」駅に連れていかれて豪華な駅構内の装飾について自慢話を聞かされたものだが、最近の地下鉄の様変わりは半端ではない。

地下鉄の車内では無料WiFiが使える、最新車両ではUSBで簡単に電源がとれる。自宅に通信回線を引く余裕のない大半のモスクワっ子は地下鉄に乗ったら立つか座るかでやきもきする。いったん座ると誰も彼もわき目を振らず黙々とスマホを叩いている。動くインターネットカ

フェである。ごくまれに老人に席を譲るのは中央アジアから来た若者くらいか、それも稀になった。

そういえば、北コーカサスの人々が目立って増えた。ヒジャーブを被った女性が車内に一人二人いる。かならず男性が同行するか複数の女性で乗車する。ベビーカーと共に乗車する姿もよく見かける。あまり見つめてはいけないのだろうが表情が硬い。

そんな地下鉄の車内をあらためて見回すと、以前はごくありふれた若い人たちの「はしやぎ」が消えている。ついこの前までのことなのだがショッピングモールで買い物をした若い女性が海外ブランドの商標の大きく印字された紙袋をちょっぴり誇らしげに抱えているのが愛らしく、時折はじけるような会話が聞こえたものである。

今回のモスクワ滞在でも地下鉄、市バスを毎日利用したが、その類の「はしやぎ」に遭遇することがなかった。押し黙った乗客が乗り、降りていく。偶然のいたずらかも知れないが庶民が財布のひもを堅く締め始めたと言指す経済専門家が多い。

この国に初めて足を踏み入れたのが半世紀も昔1972年である。ソ連社会をいやというほど体験し、どんなモノ不足にも動じないつもりだが、ソ連崩壊のような大変動だけは勘弁してほしい。そうは言っても人間の社会は同じことを繰り返すのかもしれないが、そこで生きていく人々はめざましく変化している。

モスクワの自宅は1926年に建てられた集合住宅の一角にあるが、住民がTelegram(日本のLINEに似たアプリ)で互いにつながり、住民自治らしきワイワイガヤガヤを毎日やっている。ロシア版オレオレ詐欺の電話も自宅にかかってきた。そういうロシアは行ってみたいと分らない。日本との空路直行便が次航してもうすぐ2年。ロシアとの人的交流を途絶えさせてはならないと思う。



今年もどうぞよろしくお願いたします



|   |  |
|---|--|
| <p>在日ロシア連邦大使館</p> <p>臨時代理大使<br/>ゲンナーディ・オベチコ</p> <p>〒106-0041 東京都港区麻布台 2-1-1<br/>Tel:03-3583-4224 Fax:03-3505-0593</p>   | <p>日本対外文化協会</p> <p>会 長 松 前 達 郎</p> <p>〒108-8619 東京都港区高輪 2-3-23<br/>東海大学品川キャンパス 3号館 2階<br/>電話 :03-6277-4209 FAX:03-6277-4210<br/><a href="http://www.taibunkyo.com">http://www.taibunkyo.com</a></p>  |
| <p>在日ロシア連邦通商代表部</p> <p>通商代表 ナタリヤ・スタプラン</p> <p>〒108-0074 東京都港区高輪 4-6-9<br/>Tel:03-3447-3281 Fax:03-3447-3221<br/>E-Mail:<a href="mailto:tokyo@minprom.gov.ru">tokyo@minprom.gov.ru</a><br/><a href="https://facebook.com/TradeRepr.of.Russia.in.Japan">facebook.com/TradeRepr.of.Russia.in.Japan</a></p> | <p>NPO 法人 日本・ロシア協会</p> <p>〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-10<br/>麻布誠工社ビル 3F A号室<br/>電話 :03-5797-7081 FAX:03-5797-7082</p>   |
| <p>在日ロシア連邦大使館<br/>国際人道協力連邦庁(ロシア連邦交流庁)在日代表部</p> <p>在日代表 K. ヴィノグラドフ</p> <p>東京都港区麻布台 2丁目1番1号<br/>電話 03-3583-4224 Fax03-3505-0593</p>   | <p>日本ユーラシア協会</p> <p>〒156-0052 東京都世田谷区経堂 1-11-2<br/>電話 03-3429-8231 Fax03-3429-8233<br/>E-mail: <a href="mailto:info@jp-euras.org">info@jp-euras.org</a><br/><a href="http://jp-euras.org/ja">http://jp-euras.org/ja</a></p>  |
| <p>有限会社 ロシアンティ</p> <p>代表取締役 岩 橋 和 治</p> <p>東京都台東区浅草橋 1-6-2<br/>Tel/Fax:03-3863-3226</p>   | <p>シベリアから体に優しいものにこだわっている会社</p> <p> <i>Global Wish Co., Ltd.</i><br/>グローバルウィッシュ株式会社</p> <p>代表取締役 菅 野 エ レ ナ</p> <p>〒223-0052 神奈川県横浜市港北区綱島東4-6-8-706<br/>Tel/Fax:045-567-8107<br/>E-mail: <a href="mailto:e-kanno@globalwish.net">e-kanno@globalwish.net</a><br/><a href="https://www.globalwish.net">https://www.globalwish.net</a></p> |
| <p>ナウカ・ジャパン合同会社</p> <p>代表 村 上 直 隆</p> <p>〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-34<br/>Tel:03-3219-0155 Fax03-3219-0158<br/><a href="mailto:murakami@naukajapan.jp">murakami@naukajapan.jp</a> <a href="https://www.naukajapan.jp">https://www.naukajapan.jp</a></p>  | <p>東北アジア学術交流懇話会</p> <p>理事長 千 葉 聡</p> <p>〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41<br/>東北大学東北アジア研究センター内<br/>Tel:022-795-6009 <a href="mailto:gon.cneas@grp.tohoku.ac.jp">gon.cneas@grp.tohoku.ac.jp</a><br/><a href="http://www.cneas.tohoku.ac.jp/gon2/">http://www.cneas.tohoku.ac.jp/gon2/</a></p>  |



## 今年もどうぞよろしくお願いたします



|  |   |
|--|---|
| <p>特定非営利活動法人 日口交流協会 会長<br/>ロシア文化フェスティバル日本組織委員会委員</p> <p>服 部 文 男 (技術士 建設部門)</p> <p>nichiro@nichiro.org</p>  | <p>NPO 日口交流協会</p> <p>副会長 江 守 元 彦</p> <p>東京都港区麻布台 3-4-14-401<br/>電話 03-5563-0626</p>   |
| <p>NPO 日口交流協会</p> <p>理事 内 堀 學</p> <p>東京都港区麻布台 3-4-14-401<br/>電話 03-5563-0626</p>   | <p>障害福祉サービス就労継続支援B型<br/>ONE GAME 沖縄うるま</p> <p>事務局長 岩 本 智 子</p> <p>〒904-2215 沖縄県うるま市みどり町4-17-16</p>  |
| <p>NPO 日口交流協会 常任理事<br/>帝京大学 経済学部 観光経営学科 教授<br/>中小企業診断士 ( 沖縄県中小企業診断士協会所属 )</p> <p>博士 ( 商学 ) 岡 崎 好 典</p> <p>東京都港区麻布台 3-4-14-401<br/>電話 03-5563-0626</p>  | <p>NPO 日口交流協会</p> <p>常任理事 江 本 大 輝</p> <p>東京都港区麻布台 3-4-14-401<br/>電話 03-5563-0626</p>  |
| <p>NPO 日口交流協会 常任理事<br/>社団法人 古流松藤会 会員</p> <p>山 岸 ひ さ 子</p> <p>東京都港区麻布台 3-4-14-401<br/>電話 03-5563-0626</p>   | <p>NPO 日口交流協会</p> <p>常任理事 滝 波 秀 子</p> <p>東京都港区麻布台 3-4-14-401<br/>電話 03-5563-0626</p>  |
| <p>特定非営利活動法人 日口交流協会<br/>АНО Общество Японо-Российских Связей</p> <p>常任理事 松 本 泰 男<br/>Matsumoto Yasuo</p> <p>NPO Japan-Russia Exchange Society<br/>3-4-14-401, Azabudai, Minato-ku, Tokyo, 106-0041<br/>TEL 03-5563-0626 FAX 03-5563-0752</p> | <p>NPO 日口交流協会</p> <p>顧問 朝 妻 幸 雄<br/>日口経済交流コンサルタント</p> <p>東京都港区芝3丁目34番1-807<br/>Tel: 03-3452-1560<br/>Mob: 080-2047-7182<br/>e-mail: y.asazuma@gmail.com</p> |



今年もどうぞよろしくお願ひいたします



|   |   |
|---|---|
| <p>株式会社三多摩不動産 取締役会長<br/>NPO 日口交流協会 常任理事<br/><br/>亀 田 慶 一 郎</p> <p>本社〒187-0041 東京都小平市美園町 1丁目 33 番1号<br/>(西武新宿線・小平駅前)<br/>Tel: 042-341-4041 Fax: 042-341-9565</p>                             | <p>NPO 日口交流協会<br/><br/>常任理事 日 向 寺 淳 一</p> <p>〒174-0041 東京都板橋区舟渡 3-19-7<br/>コスモ板橋蓮根 201<br/>TEL:03-3969-6503 Mob:090-5445-2236<br/>E-Mail:hyugaji@kenbun.org</p>   |
| <p>荒川区伝統工芸技術保存会<br/>手描き友禅師 荒川区無形文化財 (保持)</p> <p>笠 原 以 津 子</p> <p>〒116-0002 荒川区荒川 3-61-4-1203<br/>Tel:03-5811-8228 080-5442-3518<br/>itsukoko18@gmail.com<br/>http://itsuko.sakura.ne.jp</p> | <p>東京医労連<br/><br/>健康文化会医療労働組合<br/>執行委員長 川 口 寛 和</p> <p>〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 1-6-4<br/>アパートメントあずさわ 1F<br/>TEL:03-3968-8137 FAX:03-3966-6107<br/>E-mail:rouso@kenbun.org</p>   |
| <p>NPO 日口交流協会<br/><br/>理事 大 道 寺 柳 子</p> <p>東京都港区麻布台 3-4-14-401<br/>電話 03-5563-0626</p>  | <p>NPO 日口交流協会<br/><br/>理事 須 田 毅</p> <p>NPO 法人ドルチェ邦楽合奏団 副理事長<br/>相模原市議会議員</p> <p>〒252-0334 相模原市南区若松 1-13-9<br/>Tel/Fax042-743-6284<br/>E-Mail: sudatakesi@paw.hi-ho.ne.jp<br/>http://www.paw.hi-ho.ne.jp/sudatakesi/</p> |
| <p>NPO 日口交流協会<br/><br/>理事 土 屋 正 彦</p> <p>東京都港区麻布台 3-4-14-401<br/>電話 03-5563-0626</p>  | <p>露日協会 アルタイ支部<br/><br/>会 長 ヴャチェスラフ・ノボセロフ<br/>副会長 ユリア・クニヤシキナ<br/>副会長 ヴィタリー・ノボセロフ</p> <p>Г.Барнаул,656048,Ул.4 я Малиновая, д.56<br/>http://project6084057.tilda.ws</p>  |
| <p>在イルクーツク日本情報センター<br/>ЯПОНСКИЙ ИНФОРМАЦИОННЫЙ ЦЕНТР</p> <p>センター所長 セルゲイ・オディネツ</p> <p>664003,РОССИЯ,г.ИРКУТСК,ул.СУХЭ-БАТОРА,16</p>  |   |



今年もどうぞよろしくお願ひいたします



|  |   |
|--|---|
| <p>露日協会</p> <p>会長 ガリーナ・ドウトキナ</p> <p><a href="https://russiajapansociety.ru">https://russiajapansociety.ru</a></p>  | <p>ハバロフスク対外友好協会「すずらん」</p> <p>理事長 ゴーヤ・ロイトマン</p> <p><a href="https://www.rusprofile.ru/id/1401575">https://www.rusprofile.ru/id/1401575</a></p> |
| <p>オレンブルグ国立大学<br/>日本情報センター</p> <p>センター長 リュドミーラ・ドカシェンコ</p> <p>Pobeda Abe., 13, Orenburg, Russia<br/><a href="https://jc.org.ru/ru/index/">https://jc.org.ru/ru/index/</a></p> | <p>露日協会 エカテリンブルグ支部</p> <p>支部長 オリガ・アキメンコ</p> <p><a href="http://ru-jp.org/orya.htm">http://ru-jp.org/orya.htm</a></p>                          |
| <p>日本文化センター「ハマナス」</p> <p>会長 ナタリヤ・ソボレワ</p> <p>682860, Russia, Khabarovsk territory, Wanino</p>  | <p>露日協会 サラトフ支部</p> <p>支部長 マリーナ・ジヤコワ</p> <p>Tel : 8-917-201-71-21</p>  |
| <p>サンクトペテルブルグ 露日友好協会</p> <p>事務局長 ニーナ・ツベトコワ</p> <p>60, Leninsky street, 191025,<br/>Sankt-Petelburg</p>   | <p>クラスノダール日本センター「改善」</p> <p>センター長 オリガ・アンドレエワ</p> <p><a href="http://jckk.ru/">http://jckk.ru/</a></p>   |
| <p>ロータリークラブ<br/>「サラトフ センター」</p> <p>会長 ドミトリー・コヌィチェフ</p> <p><a href="https://www.facebook.com/SaratovCentre">https://www.facebook.com/SaratovCentre</a></p>                    | <p>ロシア文化教育センター グロバス</p> <p>センター長 ナタリア・ベレゾフスカヤ</p> <p><a href="https://www.globus-jp.net">https://www.globus-jp.net</a></p>                    |